

新聞局〜 全国大会〜初出場〜 澤田唯花さんに インタビュー〜

清高ミニタイムス

北海道清水高等学校
新聞局
北海道川部清水町
北2条西2丁目2
発行責任者
堀井 心雄



合同チームの生徒と記念撮影をする

澤田さん(後列左から2番目)

全国高等学校総合文化祭が秋田県で開催され、清水高校の代表として2年生の澤田さんが参加した。全国大会への出場が決まったとき「道外へ行くことへのわくわく感とともに、学校代表としての責任も感じていた」と当時を振り返る。

大会に向けては、読みやすい紙面作りと清水高校ならではのオリジナリティーを意識した。期限厳守を徹底し、遅くまで作業に取り組むなど、最後まで責任を持って準備を進めた。全国各地から新聞局の生徒が集まる大会当日は、普段とは違った緊張感の中で活動した。さまざまな校風やスタイルに触れる中で、積極的に取り組み、コミュニケーションをとる大切さを実感したという。夜に参加者みんなでラーメンを食べるなど、遠征ならではの貴重な思い出もできた。

今回引率した顧問の柏倉先生に、大会中の澤田さんの様子を伺った。「澤田さんは、最初は少し緊張した様子だったが、持ち前の明るさですぐに友達ができた。関東から参加した生徒からはお土産もいただいた。澤田さん

柏倉先生

も秋田のお土産を皆さんに渡し、初めて会った方とも積極的に交流していた。普段とは異なる環境の中で多くの人と交流したことは、貴重な経験になったのではないかと話していた。また、学校に戻ってからは「すぐに新聞局の活動に復帰したい」と話していた。



なまはげと柏倉先生

先生は、全国大会への参加を通して、以前よりもさらに意欲的になったと、嬉しそうに話していた。

全国大会での経験を活かし今後は、取材を通して様々な人の思いを伝えたい。新聞のクオリティーを高め、青春を感じられる清水高校ならではの新聞を目指したい。先輩や後と語った。

新聞局の

今後について

特に印象に残っているのは、北海道・福島・茨城・石川・長崎の高校生で合同チームを組んだことだ。「秋田空襲」をテーマに取り組み、見事チーム内で最高評価を獲得した。特に工夫を凝らしたタイトルが高く評価され、大きな自信に繋がった。

今回の経験を通して、新聞技術だけでなく、周囲と協力することや、積極的にコミュニケーションを取るための大切さを学んだ澤田さん。「この学びをこれからの活動にも生かし、発行部数をさらに増やせるよう、より良い新聞作りに励みたい」と今後の活動への意気込みを語った。

柏倉先生と澤田さんの 「フライベート」に迫る!

全国大会で、元気な柏倉先生は朝の散歩を楽しみ、朝食には牛丼を平らげていた。街では秋田らしいなまはげに出会い、先生は嬉しそうに何度も写真を撮影した。散策時にはババヘラ

アイスも楽しみ、澤田さんはきゆうりの一本漬けを頬張っていた。朝6時半にホテルを出発し、みんなで並んでそばを味わった日もあったという。館内の大きな熊の

ポスターや、街行く人が着ける熊よけグッズからは豊かな自然が実感できた。

道中で出会った親切な女性とは写真を撮り、お菓子をいただく温かい交流もあった。大会の裏側にあった何気ない一コマも、忘れられない旅の思い出だ。